

## 英語教育と文学的教材 [18] †

### —M. L. キング牧師の“I Have A Dream”と オバマ大統領就任演説に見る英語スピーチの指導の在り方—

上野 経子\*・幡山 秀明\*\*  
岩舟町立岩舟中学校\*  
宇都宮大学教育学部\*\*

平成24年度から新学習指導要領が中学校で施行され、今回の改訂は英語教育現場にとって大きな変化があった。23年度に施行された小学校の新学習指導要領では、小学校外国語活動が高学年で週1回行われるようになり、それを受けて中学校では話す、聞くに加えて読む、書くという4技能をバランスよくかつ統合的に指導することがポイントの一つとなっている。

英語におけるスピーチ活動は中学校の教育現場ではよく見られる活動の一つである。スピーチを行うために生徒は準備が必要となる。例えばスピーチ原稿を準備する時には参考になる英文を読み、自分の意見をまとめながら書かなくてはならない。また実際人前に立ってスピーチを行う際には訴えたいことを相手に伝える表現力が要求される。このようにスピーチは、様々な技能を自然な形で行える、効果的な言語活動といえるだろう。年1回の全国大会を目指して各地域でもスピーチコンテストが行われており、中学校ではそれに合わせて授業でスピーチを書かせる指導をしたり、クラスでスピーチをする活動を催したりしている。しかし授業では自分の言いたいことを英文で書かせることが精いっぱいであるのが現状である。

私が日本語教師として滞在していたアメリカの高校には Forensic Speech and Debate というクラブ活動があり、生徒はみな表現力が豊かで英語でのスピーチは奥が深いと思っていた。社会人として自立するためのスキルに「自分の場に応じて適切に表現する」があり、「それはよいスピーチを通して学習できると考えられる」(橘野・立花・三宅、2010)とあるように、日本でも表現力をつけることが課題となっている今、英語でのスピーチ活動は表現力を育てる一つの手立てとなるであろう。

ここではまず New Crown English Series 3 のキング牧師の有名なスピーチの時代背景やスピーチの特徴を分析していきたい。「I Have a Dream」という歴史的にも有名なスピーチがどのようにして生まれたのかを知ることは、単なるスピーチ学習ではなく国際理解の学びにつながると考えるからである。そのあとオバマ大統領の就任演説から、英語スピーチを行う場面でのパフォーマンスという視点を中心に中学校でのスピーチの指導方法を探ってきたい。

キーワード： パフォーマンス、スピーチ指導、言語的、非言語的

#### 1. “I Have a Dream”のスピーチについて

##### 1) 歴史的背景

このスピーチは1963年8月28日アメリカの首都ワシントンでマーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師によって行われたものである。この日は自

由と平等を求めた「ワシントン大行進」の一環として25万人近い人々が、首都ワシントンに集結していた。デモ参加者たちはワシントン記念塔からリンカーン記念堂まで行進し、すべての社会階層の人々が、公民権と人種や出身などの関係なく平等な保護を求めていた。キング博士はリンカーン記念館の階段の上で17分にわたって“I Have a Dream”を演説した。

1963年はちょうどリンカーン大統領がかの有名な

† Kyoko UENO\*, Hideaki HATAYAMA\*\* : English Education & Literature as Teaching Materials [18].

\* Iwafune Junior High School

\*\* Faculty of Education, Utsunomiya University

「ゲティスバーグ演説」を行ってちょうど 100 年目にあたる年であった。当時激しさを増していた南北戦争においてこのゲティスバーグの戦いは今日に至る戦いの中で最も悲惨なものの一つとされているほど多くの犠牲者が出た。その戦没者を弔うために行われたのがこの 2 分間の演説であった。

その次の年、米国連邦議会は「1964 年公民権法」を通過させた。この法律により、公立学校や施設における人種統合が規定され、人種や民族差別が事実上撤廃された。この法律はリンカーンの「奴隷解放宣言」以来のもっとも包括的な公民権立法といわれる。

## (2) 文体について

キング牧師が、「I Have a Dream」のスピーチをしている音声を聞くと、まず特徴的なのは繰り返しが多いということがわかる。また、彼独特の言い回しとリズムが聴衆には心地よく聞こえてくる。日本の中学生にも理解できる簡単なフレーズがリズムとともに調和して、とても覚えやすく印象に残るスピーチになっている。

さらに、彼のスピーチの特徴としては修辞(レトリック)がよく用いられていることが挙げられる。キングの演説は「修辞の傑作」と高い評価を広く受けている。その一つが<首句反復>で、隣り合った説の先頭である言葉を繰り返すことによってその言葉を強調する修辞技法である。(Wikipedia)例えば、“one hundred years later,” “Now is the time to~,” “We can never be satisfied as long as~,” “I have a dream,” “With this faith ~,” “Let freedom ring from~,” “free at last”といった同じ句がそのパラグラフに何回も登場する。それによって聴衆により強いメッセージを与えていると感じる。25 万人もの聴衆(当時黒人は差別されて教育も満足に受けられなかった)に対して人種平等と差別の撤廃を訴えたこの演説は聴衆をひきつける工夫があったといつてよい。

## (3) キリスト教とキング牧師の演説

専門家たちは、キング牧師の演説には黒人教会での説教のスタイルが現れていると指摘する。文字通りキング氏は黒人教会の牧師(説教者)であった。キングの語り口に関して、「黒人教会における語り口(style)と意味(meaning)の関係を Martin Luther

King Jr. ほどの確に理解したものはいない(James, H. Cone, 1984)という意見もある。また「黒人説教は伝統的に文字的であるよりも聴覚的である。言い換えれば、黒人教会において説教は、語りを通して聴衆を高揚させ、説教者との間にコミュニケーションを生み出して共同体意識を高めることに力点が置かれてきたのである」(Wyatt. T. Walker, 1979)とも言及されている。これは非常に興味深い指摘である。黒人教会で有名なゴスペルもこのことを考えると腑に落ちる。先で指摘したレトリックに関してもこのような記述があった。

黒人説教の特徴のひとつに、「リズム」と「反復」がある。黒人説教に反復が多い理由としては、奴隷制時代に彼らがおかれた状況を考えなくてはならない。元来英語は黒人奴隷にとって外国語であった。奴隷は読み書きを習うことを禁止されていたために、彼らは言葉を記憶する方法を別に考え出さなければならなかった。結局彼らはアフリカの遺産である口頭伝承の伝統に目を向け、歌の中で同一のフレーズを繰り返すことによる記憶方法を考え付いた。(略)同一のフレーズをリズムカルに反復することは、時に説教者と聴衆との間に呼応関係を成立させるためのきわめて強力な方法として作用する。(Kurosaki, 2004)

“I Have a Dream”のスピーチの部分にもこのようなりズムカルなフレーズの反復が多数みられる。

## (4) 非暴力という信念

原文のスピーチ全文を読むと、内容に強く表れているのは「非暴力」ということである。教科書に載っているのはあくまでも有名な、“I have a dream.”で始まる夢を語る部分だが、ここに至るまでにキング牧師はアメリカ国内に蔓延する黒人に対する偏見や暴力に言及し、しかし、それに対して非暴力で打ち勝っていこうと訴えている。

Let us not seek to satisfy our thirst for freedom by drinking from the cup of bitterness and hatred. So must forever conduct our struggle on the high plane of dignity and discipline. We must not allow our creative protest to degenerate into physical violence. Again and again we must rise to the majestic heights of meeting physical force with soul force.

この非暴力の思想はインドの指導者ガンジーを受け継いでいるとされる。ガンジーは、インド有数のエリートとして弁護士の資格を得るためにイギリス

に留学した時、根深いインド人差別を受ける。その後弁護士として南アフリカに渡ったガンジーは差別との戦いを始める。彼はヒンズー教徒であり、その經典の「世界は真実の岩の上に成り立っている。その真実をもたらす唯一の方法は、命あるものすべてに対して、暴力を振るわないことである」という教えを支えとした。彼はインド人に対する差別法に従わず 2338 日もの間投獄されたが、この運動が民衆を動かしてインド独立を成し遂げる原動力となる。ガンジーもまた人種差別と闘い、最後は一発の銃弾で命を奪われることになる。

## 2. 学校における英語スピーチ指導

### (1) 新学習指導要領でのスピーチ指導の扱い

平成24年度から完全実施になった新学習指導要領において新たに示された指導事項として、言語活動の「話すこと」で、「与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること」が付け加えられた。ここでは与えられたテーマについて自分の意見や主張を聴き手に対してわかりやすく話すということが重要視されている。

中学校では基礎的な英語の語彙の使用が主である。まず1年生、2年生においては表現力の育成を主眼において指導をして、3年生から高校へと段階が上がるにつれて内容や英文そのもののリズム性などに焦点を当てていくことが望ましいと考える。ここではこの表現力の育成に着目し英語で行われる名スピーチにはどのような要素が含まれるのかを探ってみたい。

### (2) パフォーマンスとしてのスピーチ

英語のスピーチには日本語のスピーチと異なるところがあるだろうか。日本語のスピーチは内容に重点が置かれがちであるが、英語でのスピーチはパフォーマンスをするという視点で指導されることが多い。このパフォーマンスとしての英語スピーチはどのような考え方に基いているのだろうか。

学術的には「パフォーマンス学の重要な基本研究領域の一つとして、スピーチ・コミュニケーションの分野がある。(略)パフォーマンスの要素を言語的パフォーマンスと非言語的パフォーマンスに大別している。そのうち非言語的パフォーマンスは周辺言語、表情、アイ・コンタクト、スマイル、身体表現、空間の使い方、色彩、モノによる自己表現、タ

イム&タイミングの7つの構成要素からなる」(橘野・立花・三宅、2010)とある。従って、言語的な要素だけではなく、非言語的な要素と合間ってオーディエンスとのコミュニケーションが生まれ、共感を生む素晴らしいスピーチとなるのである。

ここでは佐藤綾子氏の著作『自分をどう表現するか』の中の「効果的スピーチの九つのプロセス」を抜粋する。

#### スピーチの九つのプロセス

- ① トピックを選択する
- ② このスピーチの目的を決める
- ③ 中心的考えを定める
- ④ 中心的考えを聞き手にわかるように一般化する
- ⑤ 支持資料を集める
- ⑥ スピーチを組み立てる
- ⑦ リハーサル
- ⑧ スピーチをする
  - ・ 演壇までゆったりと歩く
  - ・ 聴衆へのアイ・コンタクト
  - ・ 視線のデリバリー
  - ・ 自然なスマイル
  - ・ 一人ずつに呼びかけるような話し方
- ⑨ スピーチの効果測定(振り返り)

このプロセスの中でスピーチをしている時にもっとも非言語的な要素が含まれる。まさにここがパフォーマンスといわれるところである。中学校で行われる英語スピーチコンテストなどでは登壇者にこの要素が求められることが多くなった。しかし普段の英語の授業でもこのような表現力を育てる指導をしてもいいのではないだろうか。佐藤氏は著作で、「表現されない実力はないも同じである。日本人が表現せずに相手の類推力と理解力に甘えていて済む時代にいないことは、もはや誰の目にも明らかなことです」と述べている。日本に限らずそれぞれの国にそれぞれのコミュニケーション文化があり、欧米のそれとは異なることが多い。しかし自分の内面を適切に表現する方法を知っていることはこれからの国際社会に生きていく生徒たちにとっては意味のあることであり、英語だからできる、学べる、ということも多いのではないだろうか。

生徒が英語でスピーチをするときも書くときも、そのことを理解しているかどうかでは取り組み方が

変わってくる。その違いを理解するには、少々難しくても名スピーチに触れる機会を作ることは必要だ。内容は日本語訳で理解すればよいが、実際に聞いてみると、その特徴的なイントネーション、強弱、スロークイックなど、名スピーカーが駆使用する技がある。この技がコミュニケーションの手段であり、もともと単調な日本語と異なり、英語はその特徴が強調されやすい。教師が生徒に簡単に解説するだけでも、その面白さが伝わるであろう。

### (3) 名スピーチに見るパフォーマンス

ここでパフォーマンスとスピーチの文体についてオバマ大統領のスピーチの特徴をみたい。これについては、橘野他。(2010)の解説から重要な部分を抜粋する。(下線は上野)

オバマ大統領のスピーチの文体の特徴は、繰り返しの多用、韻を踏んだ表現、具体例を伴った語りなどで、相手を自分のストーリーに引き込む仕掛けが随所になされている。(略)またキング牧師やケネディ大統領のスピーチを思い起こさせる表現も見られ、その意味では過去の効果的なスピーチをよく研究し、その伝統の上に立ったものである。

次に非言語面から見たオバマスピーチの特徴をいくつか挙げる。身体表現では、スピーチ内容に合わせて上半身を巧みに使っていることが挙げられる。人は動きのあるものに目をとめ興味をひかれる。彼のスピーチは力強く腕が上下に動く。スピーチ後半では聴衆のボルテージが上昇するのと呼応するように、自身の腕の振りも大きくなってより一層の力強さが感じられる。また、力強さだけでなく、全体をとおして、身体ごと少しずつ向きを変えようように聴衆に向かって語りかける態度からは冷静さや落ち着きを感じられる。

今年オバマ大統領が再選を果たし2期目の就任式が行われたが、ちょうどこの日がキング牧師の誕生日にあたった。そして奇しくも今年には”I Have a Dream”の演説から50年の節目の年でもある。オバマ大統領自身も今回の就任式で公民権運動やキング牧師の関係を意識していたとも言われており、奴隷解放を実現したリンカーン大統領の聖書に加えて、キング牧師が使用した聖書のフレーズを使用したといわれる。また、演説の音調や繰り返しなどキング牧師の演説と非常に似通っ

ていた。

スピーチをしている大統領は終始落ち着いて、穏やかな微笑みを浮かべながらも常に視点を動かし聴衆に語りかけるような話し方である。時にふと間をおいてまた話しかけるという方法は、20分ほどの長いスピーチが単調にならないようにする配慮だろう。Together という言葉が耳に残った。彼は常にこの言葉をキーワードとして意識していたにちがいない。たった一つの単語が語りかける意味の大きさを実感させる。すべてにおいて計算されたスピーチだと感じた。

### (4) 英語スピーチ草稿を書く指導

スピーチというのは独り言ではないのだから、相手に訴えるものがなければならない。日本の生徒にはこの観点が足りないように思える。中学校のスピーチ指導は、1学年で自己紹介、2学年では将来の夢について書きスピーチをすることが多いが、これらの内容はあくまでも自分の内面を表現することが目的であり、オーディエンスにとっては単にその内容を聞き取ることが趣旨になる。スピーチには様々な形態があってもいいと思うのであるが、青少年がするスピーチは自分が考えていることを表現すると同時に、それを聞いているオーディエンスに対して疑問を投げかけたり、考えさせたりするようなものであってもいいのではないだろうか。このようなスピーチを構成する場合、する側はあらゆる意見の想定をしなければならなくなる。この作業はクリティカル・シンキングの訓練にもなると考えられる。中学校でこのような訓練を受けておくと高校になってからディベートやスピーチの準備に役に立つであろう。

### おわりに

中学生が英語の名スピーチに触れる機会というのは本当に少ない。なぜなら英語で行われているスピーチは内容が理解できないと思っているからだ。しかしそのアプローチの仕方によって教材の与え方を変化させれば、非常に良い教材として使用できるのではないだろうか。生徒の発達段階に応じて、例えば中学生ならば、DVD教材でスピーチをしている場面を見せてどのような時にどのような態度でスピーチをすべきかを考えさせるのもよい。その際には内容はあらかじめ日本語のハンドアウトを渡してお

くこともできる。高校生段階になれば、内容をよく読んでスピーチの背景などを調べるのもよいだろう。

教科書の内容をそのまま教える授業はとかく単調になりがちである。しかしこの研究で、教科書の内容をきっかけとして様々な視点から新しい授業内容を作ることができることを示した。教科書をもっと楽しく学ぶ教材として利用することが今後中学校における英語の授業を変えることにつながるのではないかと考えている。

(本稿の実質的著者は上野経子教諭です)

#### 参考文献

- 黒崎真, 2004. 「説教としての “I Have a Dream”  
演説: キング牧師と黒人キリスト教信仰の伝  
統」『異文化コミュニケーション研究』16, 25-46
- 橘野実子, 立花知香, 三宅重徳, 2010. 「学科公開講  
座における学際的アプローチ 一名スピーチ  
をコミュニケーションに活かそう!」『安田  
女子大学紀要』38, 43-50.
- Martin Luther King (2003) *I Have a Dream – 40<sup>th</sup>  
Anniversary Edition: Writings and Speeches  
That Changed the World*
- Walker, Wyatt Tee. (1979) *Somebody's Calling  
My Name: Black Sacred Music and Social  
Change. Valley Forge, PA: Judson Press.*

